

梵珠ガイド会通信

2022年07月01日号

自然ふれあい
ボランティアガイド会

■ミズバショウの道ガイドマニュアル作成のための現地調査



◆コブのある巨木ブナの測定

6月19日、梵珠のミズバショウの道のガイドマニュアル作成のための現地調査を参加者9名で実施しました。

当会では、これまでサワグルミの道、マンガンの道、アカゲラの道のガイドマニュアルを作成してきたところです。

当日は、第一駐車場から沢内沢にかかるホタル橋を渡り、トンボ池からスタート。ミズバショウの道の標柱1から6番をポイントに、4合目のカタクリの森、サワグルミの道との合流地点までの0.9Kmを現地調査しました。

当日の早朝、トンボ池にはアカショウビ

ンが飛来してきたとのことで、その観察のために来られる方々も多くみられました。トンボ池は、例年になく水が少ないようですが、モリアオガエルの卵塊が5月下旬からさらに増えていました。

ミズバショウの湿地の山際では5月下旬にはタゴガエルの鳴き声が聞こえていましたが、当日は聞こえず、モリアオガエルが木道のそばにいたので捕まえて写真に収める。

ブナ林の斜面の階段を登る。以外と急である。道の両側にはトクサが群生しており、そのトクサで10円玉を磨いてみた。トクサは、北海道や中部以北の本州など、冷涼な山間に自生するシダの仲間。莖の表面には60本近い溝が縦に走り表面はザラつき、これが砥石代わりになるため「砥草」と命名された。草体に多量の珪酸（シリカ）が含まれているため、トクサが砥石代わりになる。生のままでも植木ばさみや爪を研ぐことに使える。

2合目近くでは、コブのあるブナの巨木があり、幹周りを測定してみると6mもありました。

4合目近くの東屋で休憩していると、その後ろにはクルマユリが1本、つぼみをつけもう少しで花が咲く様子。さらに下に目をやると、フデリンドウがあちらこちらに。5月に花が咲き、今では実が上を向き小さなタネが見える。雨の日に実が上を向き開き、雨のため種子が流れ落ちる。これを「雨滴撒布」という。種子は褐色の長楕円形で、長さ0.3~0.5mmと小さい。自然の営みに感心させられます。



◆ヤナギトラノオ



◆モリアオガエル



◆フデリンドウの実

■ センター主催「梵珠山横断トレッキング」



◆木村講師により伝説の蕨大足の説明



◆松倉神社奥の院

◆松倉神社の急な坂道

6月26日、自然ふれあいセンター主催の「梵珠山横断トレッキング」が実施され、ガイド会からは講師として木村洋志氏、サポート役として斎藤・渋谷が参加しました。当日はセンターからバスを利用し、少年自然の家まで移動。少年自然の家～松倉神社～梵珠山頂～自然ふれあいセンターを横断するトレッキングでした。参加者は15人で、当日は暑かったものの、風がありブナ林の中は幾分下界よりは涼しく、心配された降雨もなく、ゴールのセンターへ予定より早く到着しました。

コース途中には、伝説の蕨「大足」があり、木の生えていない蕨がちょうど足の形をし、もう一方の足は松前にあるという。ちょうど登山道から下方のスギ林の中に蕨を見ることができました。

松倉神社入り口の駐車場で昼食を摂り休憩した後、満腹の状態、松倉神社の急な登山道を一気に登る。33体ある観音様の顔をゆっくり拝見する余裕もなく松倉神社へ。磐座にある奥の院にも登り、津軽平野を見渡す。コース途中には、倒木も多くありましたが、どうにかまたいで通り抜けることができ、また、所々、下刈りもしていただき、順調に歩を進めることができました。

当日は、梵珠登山が初めての小4の女子児童と母親が参加され、約10Kmのトレッキングを無事踏破できて、「大変楽しかった」と感想を述べていました。また新しいBONJU「山ガール」の誕生です！？

■ 新しいメンバー1名が加入！！

今年、県自然保護課からボランティアガイドとして16名が委嘱されました。1名の辞退者があり新たに1名が加わりました。

青森市の神 美代子さんです。ボランティアガイドの仲間として、これからよろしくお願いします。

■ ガイド会活動日誌

月 日	活 動 内 容	担当ガイド名
6月5日	センター主催「梵珠山から三宝の松を経て鐘撞堂山へ」	木村
6月19日	ガイド会主催ミスバショウの道ガイドマニュアル作成の現地調査	9名参加
6月22日	センター主催「梵珠山横断トレッキング」現地下見	木村
6月26日	センター主催「梵珠山横断トレッキング」	講師：木村・VG：斎藤・渋谷